

春秋座 サバイバーズ

31人のシニア × 7人の若人 × 杉原邦生による完全新作

レジェンド・オブ・LIVE

どこにでもある小さな人生を壮大なスケールで辿る、祝祭スペクタキュラー演劇

2014.3.22 sat → start 14:00 2014.3.23 sun → start 14:00

京都芸術劇場 春秋座

レジェンド・オブ・LIVE

演じるシニア企画 2013

春秋座 サバイバーズ

レジェンド・オブ・LIVE

2014.3.22 sat → start 14:00 2014.3.23 sun → start 14:00

※受付開始は開演の1時間前、開場は開演の30分前 ※上演時間は2時間程を予定しております。

入場料<全席指定> 一般 1,500円 / シニア 1,200円 / 京都芸術劇場友の会 1,000円 / 学生&ユース 500円

※シニアは60歳以上、ユースは25歳以下 ※シニア・学生・ユースは要証明書提示 ※車イスをご利用の方は京都芸術劇場チケットセンターまでお知らせください。 ※未就学児童は膝上入場可。座席が必要な場合はチケットをご購入ください。

チケット発売日：一般発売 2014年1月22日(水)

【チケット取り扱い】 ■ 京都芸術劇場チケットセンター TEL.075-791-8240(平日10:00~17:00)

■ 劇場オンラインチケットストア ※要会員登録(無料)

パソコンから <http://www.k-pac.org> 携帯から <http://www.k-pac.org/theatre/m/m>

■ チケットぴあ TEL.0570-02-9999 Pコード 432-787

■ イープラス <http://eplus.jp>

■ 京都・滋賀各大学生協プレイガイド

お問合せ：京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター TEL.075-791-9437

京都芸術劇場 春秋座

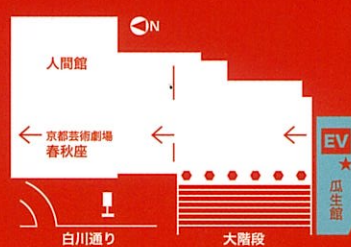
〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116 京都造形芸術大学内

京都芸術劇場 検索

会場案内

- JR・近鉄京都駅、阪三三条駅、阪急河原町駅から京都市バス5番「岩倉」行き乗車、「上終町・京都造形芸大前」下車(京都駅から約50分、三条駅・河原町駅から約30分)
- 京都市営地下鉄丸太町駅・北大路駅から京都市バス204循環に乗り、「上終町・京都造形芸大前」下車(約15分)
- 京阪電車出町柳駅から叡山電車に乗り換え、茶山駅下車(徒歩約10分)

※駐車場はございませんので、お車・バイクでのご来場はお断りします。



白川通りから劇場1F(人間館1F)へは、瓜生館エレベーターをご利用下さい。

「演じるシニア企画」とは.....

舞台経験を問わず、60歳以上の一般の方を公募。「春秋座の舞台に立つ」を目標に、2013年夏から毎月1回、橘市郎氏(プロデューサー)や岩村原太氏(照明家)、川村毅氏(劇作家・演出家)、河村博重氏(能楽師)、山田せつ子氏(ダンサー)といった舞台芸術のあらゆる分野から迎えた講師によるワークショップを受け、本格的な舞台作品を上演する企画です。本年度は作品創作を、京都を拠点に活躍する新進気鋭の演出家・杉原邦生氏と共に行います。

構成・演出・美術：杉原邦生

出演

石田和子	上田 遙	上田弘子	大西芳江
小川彪雄	加藤和子	熊本マリ子	栗原弘子
後藤春美	後藤美津子	千田輝雄	高見潤子
田畔多實子	田中賢一	谷野修子	中田貞代
長田美穂子	中西もねこ	中野朝子	西口節子
登 典子	濱地廣光	松本美智子	美濃部尚子
三輪めぐみ	元岡恒子	森 悦子	森川 稔
山田吉勝	山田麻理	山村みどり	

坂下美波	嶋本楨子	田淵詩乃	室田敬介
山田健人	河井 朗	福川悟史	

スタッフ

[舞台監督] 大鹿展明 [照明] 魚森理恵 [音響] 齋藤 学
 [宣伝美術] 西村 [宣伝写真] 堀川高志
 [演出助手] 大石達起、楠 海緒
 [広報] 今井尚美
 [制作] 井出亮、土屋和歌子



カッコイイ人たち
と
「伝説」をつくる。

春秋座サバイバルにはカッコイイ人たちがいない。僕はそう思っています。だって、60歳を過ぎてはなお、新しいことに挑戦しているという人たちの集まりだから。「これまでの生活を変えたい」「やるなら今しかない」「何も分らないけどとにかく応募してみた」「いろんなことから解放されたら、残りの人生を自分のために生きたい」そんなアツい想いを持った人たちの、エネルギーの集まりだから。舞台に出たことなんか無い人も。過去に患った病気のため、身体が思い通りにならない人だって。何度説明しても同じ質問をしてくる人もいる(笑) だけど、不安とか迷いとか恥とか見栄とかそんなもの全部取っ払って、とにかく、新しい場へ飛び込んでいく。そういう人たちの姿を、僕はただ素直にカッコイイと思う。そして、そんなシニアたちのエネルギーに触発されて集まった学生たちもいる。だから、春秋座サバイバルにはカッコイイ人たちがいない、と僕は言い切れる。

そんなカッコイイ人たちと一緒に作る演劇作品、それが「レジエント・オブ・LIVE」です。演劇と言っても、台本があつて、役があつて、その台詞を覚えて上演するというものではありません。ワークショップ形式でつくる、世界に2つとない作品です。出演者のみなさんと一緒にアイデアを出し合いながらひとつの作品をつくり上げていきます。稽古が始まるまで、台本も、役も、台詞も、何もありません。ただひとつ言えることは、この作品は「人生」についての物語だということです。ひとりの人間の「人生」なんて、とてつもなくちっぽけで、誰に注目されることもなく、語り継がれることもない、カッコ良くもないし、ドラマティックでもない、たわいなものなかもしれません。けれど、その小さな「人生」を、生まれて死んでいく人間たちの姿を、春秋座という大舞台に、カッコイイ「伝説」として刻み付けようと思っています。

さあ、「伝説」をつくるための冒険が始まりました！ 僕たちが「レジエント・オブ・LIVE」という名の山を登り切ったとき、どんな景色が見えるのでしょうか... その瞬間をぜひ「LIVE」生で体感しに来てください。

杉原邦生 Kunio Sugihara → 演出家、舞台美術家。1982年東京生まれ、神奈川県茅ヶ崎育ち。EXILEファンクラブ「EX FAMILY」会員。2004年、自身が様々な作品を演出する場としてプロデュース公演カンパニー「KUNIO」を立ち上げる。上演時間が8時間半にも及ぶ大作KUNIO09「エンジェルス・イン・アメリカ」や、イヨネスコの不条理劇を大胆な解釈で祝祭演劇に仕立てたKUNIO08「椅子」など、話題作を次々と発表。2006年より企画員として参加している「木ノ下歌舞伎」では、2013年に上演した「黒塚」で「CoRich舞台芸術まつり! 2013春」グランプリを受賞。同年11月にはフェスティバル/トーキョー13主催プログラム「東海道四谷怪談一通し上演」にて演出を担当。ワークショップ形式で作品をつくりあげる「文化祭」シリーズは、各都市で好評を得ている。また、こまばアコラ劇場が主催する舞台芸術フェスティバル「サミット」ディレクターに2008年より2年間就任、2010年から3年間KYOTO EXPERIMENT フリンジ企画のコンセプトを務めるなど、持ち前の「お祭好き」精神で活動の幅を広げている。



構成・演出・美術
杉原邦生

最近の主な演出作品

「金の文化祭 in AICHI〜Golden Anniversary〜」
◎愛知県芸術劇場 小ホール(2012年11月)



KUNIO08「椅子」ファイナル
◎京都芸術劇場 studio21(2013年3月)



木ノ下歌舞伎「東海道四谷怪談一通し上演」
◎あうるすぽっと(2013年11月)

レジエント・オブ・LIVE

2014.3.22 sat → start 14:00

2014.3.23 sun → start 14:00

京都芸術劇場 春秋座

2013

レジエント・オブ・LIVE

